

令和7年12月1日

飯能市長 新井 重治 殿

国民民主党 小野 まり

## 【飯能市緊急財政対策に関する緊急要望】

今回の市の緊急財政対策に関する事務事業の広範囲な緊縮案には、市民の多くが不安を抱いている。少子高齢化による人口減などを要因とした飯能市の現状には、一定の理解を示すものの、将来に対するビジョンが全く見えないという声が大半である。そこで、現状の打開策を含め、将来に向けた対応策を提案する。

### 1. 市民への迅速で丁寧な説明

今回の緊急財政対策については、様々なメディアにも大きく取り上げられ、あたかも財政破綻した夕張市と同列かのような間違った認識を抱く市民も少なくない。飯能市への移住に希望を抱いて定住してきた生産年齢層には、特に落胆を与えた可能性がある。「財政調整基金を危機レベルまで大幅に取り崩しての借金返済」なのかという市民もいる。その原因を冷静に分析し、市民の不安や誤解を1日でも早く解く必要がある。そのためにも、市長は早急に緊急財政対策についてのタウンミーティングの開催など、市民への丁寧な説明を広く実施すべきである。

また今後も続く厳しい財政状況については、例えば北本市による「広報きたもと」の「財政状況伝えるマン」のように、日頃から市民に分かりやすく伝える努力が必要であると考えます。

### 2. 市民サービス向上に繋がる創意工夫

飯能市の納税者の多くが就労者であることを鑑みれば、今回の緊急財政対策による窓口開庁時間の短縮は、市民の暮らしに不便を与えることが予想される。他市のように毎月1回の土曜日午前中の開庁など、市民サービス向上に繋がる創意工夫もこの機会に考えるべきである。

公共施設においても、近隣他市は商業的な団体にも、それが市民サービスに繋がる類の催しであれば、適切な使用料を得ながら活動許可を出しているところが散見される。緊急財政対策時だからこその、これまで出来なかった施策の取り組みを促すべきである。

### 3. 一歩進んだ官民連携の積極的な取り組み

国が推進している「スモールコンセッション」（10億円以下の小規模PPP/PFI）を主軸に、市が所有する廃校や公共施設などの小規模な遊休不動産を活用し、地域資産を「負債」から「財産」に変えることに注力すべきである。

スモールコンセッションでは民間事業者のアイデアや大胆な活用法で、地域資産を最大限に活かす。特に都心から近く、自然豊かな観光資源が多くある本市の魅力を、今回の緊急財政対策で停滞させることなく、小規模なPPP/PFI事業（官民連携事業）で、地域の活性化に繋げていくべきである。

また停滞が許されない医療・福祉・インフラの分野においても、新たな官民連携の仕組み「ソーシャル・インパクト・ボンド」（SIB/民間資金活用による社会課題解決方式）や「ペイ・フォー・サクセス」（PFS/成果連動型民間委託方式）を積極的に研究・活用し、市民サービスの低下を招かないように最善の努力をすべきである。

またこれらの契約に関わる行程においては、計画段階から市民に分かりやすく開示し、やる気のある市内民間事業者にも参加の機会を創出すること。地域住民・事業者・行政が一体となり、庁内のみならず「オール飯能」で、これまでの先入観や固定観念にとらわれず、多様な意見や新しい考え方を柔軟に受け入れる姿勢で、この困難を乗り越えるべきである。

以上

令和7年12月1日

飯能市長 新井 重治 殿

国民民主党 小野 まり

## 歴史と文化あふれる地域資産を活かした 【好循環と持続可能性をめざしたまちづくりの要望】

飯能市は、都心から電車でも車でも1時間足らずの埼玉県内でも稀にみる緑豊かな自然が美しい「森林文化都市」である。西武池袋線飯能駅北口付近のまちなかには、かつて栄えた絹織物や林業などの地場産業の恩恵を受けた、明治、大正、昭和初期のレトロモダンな歴史建築が点在している。

しかし、近年その建物の数が取り壊しなどにより急激に減ってきており、このままでは、どこにでもある閑散とした商店街や、無機質な集合住宅があるだけのまちなかになりかねない。そこで、飯能のまちなかに残る歴史建築を「群」としてとらえ、魅力あふれる好循環と持続可能性のあるまちづくりに繋げていくために、下記のとおり提言する。

### 1. 産業歴史遺産の継承

埼玉県内およびJR八高線で結ばれた八王子などには、かつて絹・織物産業の隆盛によって栄えた産業遺産としての建築物がある。現在では各地でその価値が認められ、修復・利活用され、賑わい創出の場となっている。

飯能市の場合、それらの遺産ともいえる歴史建築が、幸いにも駅から徒歩圏内という好立地にあり、これらの地域資産を有効的に活かすべきである。

### 2. 他市連携の「<sup>むさしのくに</sup>武蔵国シルクロード・プロジェクト」の提案

日本国内に現存する織物関連の歴史的建造物は、その多くが保存・修復・利活用されている。埼玉県内西部だけでも川越市「旧川越織物市場（コエトコ）」、入間市「旧石川組製糸西洋館」「旧埼玉県繊維工場試験場（アミーゴ）」など。さらに県東部や秩父、横浜までを繋げてネットワークとし、その中心を飯能市とし、観光客誘致の一助、さらなるエリア価値の向上に努めるべきである。

### 3. PFS/SIBによるまちづくりにおけるファイナンス課題の解決

財源に限りある飯能市において、まちづくりにおける財源確保は困難な状態にある。そこで、内閣府が推進しているPFS（ペイ・フォー・サクセス/成果連動型民間委託方式）およびSIB（ソーシャル・インパクト・ボンド/民間資金活用による社会課題解決方式）を、積極的に活用すべきである。これは民間企業のノウハウと、民間資金を活用した新しいソリューションを成果連動型で実施することで、好循環と持続可能性をめざしたまちづくりを公民連携で実現させる有効な手段である。そのためにも、市長の強いリーダーシップを発揮させるべきである。

以上